3月8日・中山・3歳未勝利戦　初勝利のウイナーズサークル

小島友実の

あの馬のSTORY

チャロ

今回、ご紹介するのはデビュー3戦目で勝ち上がったチャロ。母レッドソンブレロの子供は中央でデビューした兄姉4頭がすべて勝ち上がっていた事もあり、一昨年の1歳募集の時に注目していた方も多いのではないでしょうか。管理する和田正一郎調教師も1歳馬募集時のインタビューの際、「パワフルでありながら、重苦しさがありません。スピードがありそうです」と高評価。実際、1歳馬募集開始後、早々に満口になった馬でした。

そのチャロの初戦は昨年11月2日の京都ダート1400㍍。結果は3着でした。

「道悪で砂をかぶって嫌がっている感じがあったものの、我慢して良い位置を取れました。勝てなかったのは残念でしたが、デビュー戦の前の調教の動きも良かったですし、数戦で勝ち上がれそうという手応えを持ちました」

初戦の後はノーザンファーム天栄へ放牧に出て12月初旬に帰厩。2戦目は中山ダート1200㍍に出走し、2着でした。

「調教でも終始ハミを噛んでいたのですが、返し馬でも制御するのに苦労している様子でしたね。もう少し、力を抜く事を覚えてくれた方が良いなというレースでした」

2戦目の後は右前にソエが出たり、馬体減があったため、ノーザンファーム天栄へ放牧。レースで力を抜いて走れるように、こんな調整が行われました。

「美浦トレセンにいた時も意識してやってはいたのですが、牧場でフラットワークを入念に行ってもらいました。その効果があって、トレセンに戻ってきてからの動きは以前より抑えが効くようになっていましたね」

また、3戦目の前は馬体にこんな変化があったそうです。

「2戦目まではもう少し体があっても良いなという感じでした。でも3戦目の前に戻って来た際は肉付きが良くなって、力をつけた印象でした。またテンション面が影響し、飼葉食いがいまひとつの面があったのですが、この時は飼葉食いが良くてそれをベースに調教を進め、レースに出走できました。それが3戦目のプラス14キロに表れていたと思います」

そして、この3戦目となった3月8日の中山ダート1200㍍戦で嬉しい初勝利を手にしました。

「休み明けの分、落ち着いていたものの、控えると馬がファイトする気配があったため、菅原明良騎手はハナに立ったようです。外から来られても余裕があり、最後は突き放す脚を見せてくれました。勝ち方が鮮やかでしたし、能力の高さは間違いないと感じる一戦でした。もっと上に行ける馬だと思います」

そして和田師は、こう続けます。

「現段階での一番の長所は前向きさですね。そして、スピードがある事もすごく有利だと感じます」

改めて、現段階での課題点を伺いました。

「オンオフの切り替えが上手にできるようになってほしいですね。まったくコントロールが効かないという感じではないんです。でも、オンの気持ちのままの状態でいってしまうところがあります。ですから、馬に人が跨っている時だけではなく、下で馬を曳いている時から教えるようにしています。また調教では他の馬の後ろにつけて、我慢を覚えさせるようにしています。必要な時だけ前向きさを出す事ができるように、しっかり対応していきたいですね。また、牡馬にしては飼葉食いが旺盛ではない面があります。このような背景から、現段階ではリフレッシュ放牧を挟みながらレースに出走し、余裕のあるローテーションを組んだ方が良いと感じています」

次走についても伺いました。

「3戦目のあとに出た右前のソエの状態は落ち着き、天栄で順調に調整中です。現状ではダートの短距離向きと感じますので、5月17日の東京ダート1400㍍戦へ向かう予定です」

和田調教師にとってチャロは久しぶりに管理するグリーンファームの馬です。

「素質が高い馬を預けて頂き、感謝しています。今後まだ筋肉がついて良くなるでしょうし、成長力があると感じます。オープンを目指していきたいですね。期待しています。能力を目一杯引き出して、会員の皆様に喜んでもらえるよう努力していきます。課題を克服していく事で、結果はついてくると思っています」

チャロが勝った未勝利戦のタイム1分11秒5は重馬場だったとはいえ、なかなかの好時計。また2着だった馬が次のレースで快勝するなど、レベルが高かった印象ですよね。今後の活躍が本当に楽しみです。

（電話取材：4月3日）

profile
競馬キャスター&ライター。現在、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフワークは馬場取材で、2024年「馬場のすべて教えます2（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。